

Simulating energy use in Office Buildings by Modeling the Relationship between Psychological Factors and Occupants' Behavior in Japan

何, 清怡

<https://hdl.handle.net/2324/7363555>

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (工学) , 課程博士
バージョン :
権利関係 :



氏 名	何 清怡		
論 文 名	Simulating energy use in Office Buildings by Modeling the Relationship between Psychological Factors and Occupants' Behavior in Japan (心理的要因と行動の関係のモデル化によるオフィスのエネルギー使用行動シミュレーション)		
論文調査委員	主 査	九州大学	教授 住吉 大輔
	副 査	九州大学	教授 尾崎 明仁
	副 査	九州大学	准教授 杉山 高志

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、個人の環境意識を基にエネルギー使用行動の発生確率を定量化し、環境意識の違いが建物のエネルギー消費量に与える影響を分析したものである。従来のエネルギーシミュレーションでは、人の行動は画一的なスケジュールで与えられ、環境意識の違いが計算に反映されることはなかった。本研究で新たに提案された拡張 TPB モデルは、環境意識とエネルギー使用行動の関係をよりの確に表現するものであり、エネルギー使用行動のモデル化を実現し、環境意識の違いをシミュレートできるようにした点は、学術性に優れ社会貢献性が非常に高い。カーボンニュートラル社会を実現する上で、行動変容は一つの重要な方策であり、本論文の成果は建築設備工学に寄与するところが多い。よって、本論文は博士（工学）の学位に値するものと認める。